

審査結果**各賞氏名（50音順）****最優秀賞（賞金100万円）**

◎該当者なし

優秀賞（賞金20万円）

◎「1億2千万人の温暖化防止策－個人間排出権取引の提案－」

金子真実さん 青山学院大学 国際政治経済学部4年

◎「知識社会における地球温暖化～環境特許（エコパテント）制度の提唱～」

小島孝明さん 東京理科大学専門職大学院 総合科学技術経営研究科MIP 修士課程

◎「地球温暖化緩和対策における温泉源を利用した地熱発電の可能性」

小長谷瑞木さん 筑波大学大学院 生命環境科学研究科 修士課程

◎「地球温暖化問題を越えて - 環境文化による第三のアプローチ」

中村寛樹さん 東京工業大学大学院 社会理工学研究科 修士課程

佳作（賞金10万円）

◎「消費者の環境意識と環境配慮購買行動－環境問題の解決へ向けて」

小川絢平さん、小平文洋さん、清田元子さん、村田絵里華さん、中央大学経済学部4年

◎「農産物の生産地と消費地のマッチングによる二酸化炭素排出量の削減戦略」

佐瀬寛展さん 京都大学大学院 地球環境学舎 修士課程

◎「『日本を木の国にする研究』～間伐材残存型枠による建築・土木構造物の表面木化に関する研究」

鈴木宣寛さん 筑波大学大学院 環境科学研究科 修士課程

◎「飛行機からの温室効果ガス削減のための国民参加型計画」

日高聡子さん 埼玉大学 経済学部3年

◎「先進国と途上国の双方での低年式車対策による温暖化物質の削減」

山口真央さん 工学院大学 工学2部1年

懸賞論文審査委員

山本 良一 東京大学生産技術研究所 教授

日引 聡 独立行政法人国立環境研究所

社会環境システム研究領域 環境経済政策研究室 室長

亀山 康子 独立行政法人国立環境研究所

地球環境研究センター 主任研究員

竹田 雅浩 三菱UFJリサーチ&コンサルティング 環境・エネルギー部 主任研究員

中谷 巖 三菱UFJリサーチ&コンサルティング 理事長

講 評

三菱UFJリサーチ&コンサルティング理事長 中谷 巖

ポスト京都議定書に向けた議論が本格化する中、地球温暖化問題についての人々の関心が高まっている。地球温暖化の進行を放置することは、われわれの存在基盤である地球を人類が存続し得ない状況に追い込む行為であり、何もしないことが、地球環境を脅かす積極的な行為になっていることを認識する必要がある。放っておくと進行してしまう地球温暖化にどう立ち向かうか。この身近で大きな問題への処方箋を、地球の未来を担う若い学生の方々に真剣に考えていただきたいという意図から、この懸賞論文は企画された。

学生向け懸賞論文は、当社にとって初めての試みであり、募集期間も約3ヶ月と比較的短かったことから、どのくらいの論文が集まるのか不安であったが、ふたを開けてみると全国から58点もの力作が集まった。短期間で集中的に論文をまとめ上げられた全ての応募者の皆さんの努力に深く敬意を示したいと思う。

選考に際しては、まず1次審査として、当社環境・エネルギー部の研究員による絞込みを行った。彼らは、企業あるいは官公庁向けに環境経営や環境政策に関するコンサルティングや調査を行うことを生業とするプロフェッショナルである。プロの目から、応募作品のオリジナリティ、説得力（論理が明快か）、知識量（十分な知識の裏づけがあるか）、実現可能性、体裁（分量やわかりやすさ）などを判断してもらい、1次審査通過作品として14点を選出した。

最終審査（2次審査）では、多岐にわたる観点からの提案に対応すべく、外部から3名の専門家の先生方に参加していただいた。東京大学の山本先生には工学的な観点から、国立環境研究所の日引先生からは環境経済学の観点から、同じく国立環境学研究所の亀山先生には国際政治学の観点から、貴重なご意見をいただいた。当社からは、環境・エネルギー部主任研究員の竹田、そして私、中谷の2名が加わり、総勢5名で1次審査を通過した14作品を審査した。

最優秀賞（大賞）については、残念ながら「該当者なし」となった。本懸賞論文では、最優秀賞の賞金を100万円と学生向け懸賞論文としては高額の賞金を設定し、次点である優秀賞の20万円と大きな差をつけたが、今回の応募作品の中には、そこまで突出した作品は、残念ながら無かったというのが、審査員全員の共通した意見であった。オリジナリティのあるユニークな提案には実効性に疑問があったり、勉強の成果が反映された堅実な論文はオリジナリティや面白みがいまひとつ欠けていたり、いずれの作品にも一長一短があり、文句なく最優秀賞を授与できると思える作品は残念ながら見当たらなかった。

優秀賞に関しても、審査員の意見はかなり分かれた。ある審査員が推す作品に対し、別の審査員が難色を示すなど、おざなりではない真剣な議論が交わされた。活発な議論の末、基本的な評価方針として、最低限のロジックを備えていること、多少突飛であっても若い学生らしい熱意溢れる提言があれば評価することとした。最終的には次の4作品が選出された（もちろん、最終決定時には審査員全員の一致を得た）。

金子真実さん「1億2千万人の温暖化防止策—個人間排出権取引の提案—」は、個人間排出権取引という既によく検討されたテーマを扱ってはいるが、提案が具体的であることや内容の面白さが評価された。

小島孝明さん「知識社会における地球温暖化～環境特許（エコパテント）制度の提唱～」については、実現可能性や制度設計の問題点を指摘する声もあったが、環境特許というアイデアのユニークさが評価された。

小長谷瑞木さん「地球温暖化緩和対策における温泉源を利用した地熱発電の可能性」は、地熱発電の活用を提案した論文。温暖化防止効果は限定的であるが、独自にヒアリングを実施するなど行動を伴った作品であることが評価された。

中村寛樹さん「地球温暖化問題を越えて - 環境文化による第三のアプローチ」は、文化、芸術面から国民の意識改革を推進することを通じて、温暖化に立ち向かおうという提案であり、各審査員から広範な評価を得た。

また、優秀賞に次ぐ佳作としては、次の5点が選出された。

小川絢平さん、小平文洋さん、清田元子さん、村田絵里華さん共著の「消費者の環境意識と環境配慮購買行動—環境問題の解決へ向け」は、主張があいまいとの声もあったが、アンケートを上手く活用した地道な分析ぶりが評価された。

佐瀬寛展さん「農産物の生産地と消費地のマッチングによる二酸化炭素排出量の削減戦略」は、生産地と消費地のマッチングというアイデアのユニークさと、各種データを押さえた上での主張である点が評価された。

鈴木宣寛さん「『日本を木の国にする研究』～間伐材残存型枠による建築・土木構造物の表面木化に関する研究」は、木材の炭素固定効果に着目した提案。温暖化防止への効果は限定的だが、アイデアのユニークさが評価された。

日高聡子さん「飛行機からの温室効果ガス削減のための国民参加型計画」は、実現可能性に疑問の声もあったが、発想のユニークさや提案が具体的であることが評価された。

山口真央さん「先進国と途上国の双方での低年式車対策による温暖化物質の削減」は、途上国に向けて輸出される低年式車の整備促進を提案したユニークなアイデアが評価された。

いずれにしても、元気のある若い人たちによる荒削りでもユニークな論文を読むことは、刺激的で楽しい経験であった。